

◇技術交流会報告◇

パヤオでの袋カブシ釣漁法

宮古支庁農林水産課 七 條 裕 蔵

1. 課 題

パヤオでの袋カブシ釣り漁法研修

2. 目 的

昨年度の漁村青壮年婦人活動実績発表大会において「パヤオにおけるマグロ石巻き落とし漁法」と題して港川漁協青壮年部が水深60～100 mを遊泳するマグロを対象とした漁法について発表し、知事賞を受賞している。一方、宮古地区のパヤオ周辺では、専ら表層の魚を対象とした曳縄、一本釣り漁法が行われており中層の魚を対象とした漁法はみられない。今回の交流会は中層マグロを対象とする漁法について宮古の漁業者が知見を収集し、宮古のパヤオ漁業に新技術を導入することを目的として実施した。

3. 交流及び視察場所

那覇市沿岸漁協、沖縄市漁協（パヤオ直売店）、糸満漁協、同与根支部

4. 日 程

平成6年3月9日～11日

5. 参 加 者

平良市漁協組合員 渡真利 武、仲里 茂春
宮古支庁農林水産課 七條 裕蔵

6. 研修状況

3月9日に長嶺普及員に乗船予定の達光丸(3.6 t、漁船法70 ps)船主である糸満漁協与根支部安谷屋光雅氏を紹介してもらい漁法の概略について説明を受けた。

10日早朝に乗船する予定であったが天候が悪化、

波浪高くやむを得ず延期した。

10日は県漁連市場、那覇市沿岸漁協、沖縄市漁協を視察した。沖縄市漁協においてはパヤオ漁業部会の真喜志会長をはじめとする数名の漁業者に同地区で行われている旗流し漁法について説明を受け、あわせてパヤオ直売店についても運営状況等、色々な情報を提供して頂いた。

11日に天候が回復し乗船実習を実施した。午前7時に与根漁港を出港し糸満3号パヤオに向かった。パヤオは喜屋武岬の南南東に設置されており到着まで1.5時間かかった。到着後、漁を開始した。

餌は冷凍ムロアジを3等分して使う。頭部以外の1つを釣針にかけ本餌とし、3切れ程を撒餌として使う。

釣針からカブシ袋（ナイロン製）までの釣元10ヒロを片手の親指、小指を軸として8の字に巻き取り、袋をひろげてそれを置く。その上に練り餌（チン釣用）をかぶせ、さらに撒餌、本餌を置き、袋を閉じる（袋の上方50cmにあるニクロム線で口を1回転巻く）。

潮上に船首をむけ、船首からカブシ袋を投入する。道糸を90ヒロまで降ろし強いシャクリを2～3回いれ、ニクロム線を外す。外れたら釣元の分10ヒロを巻き上げる。

船主は手元の遠隔操縦装置で船位が投入位置からずれないようにこまめにコントロールする。

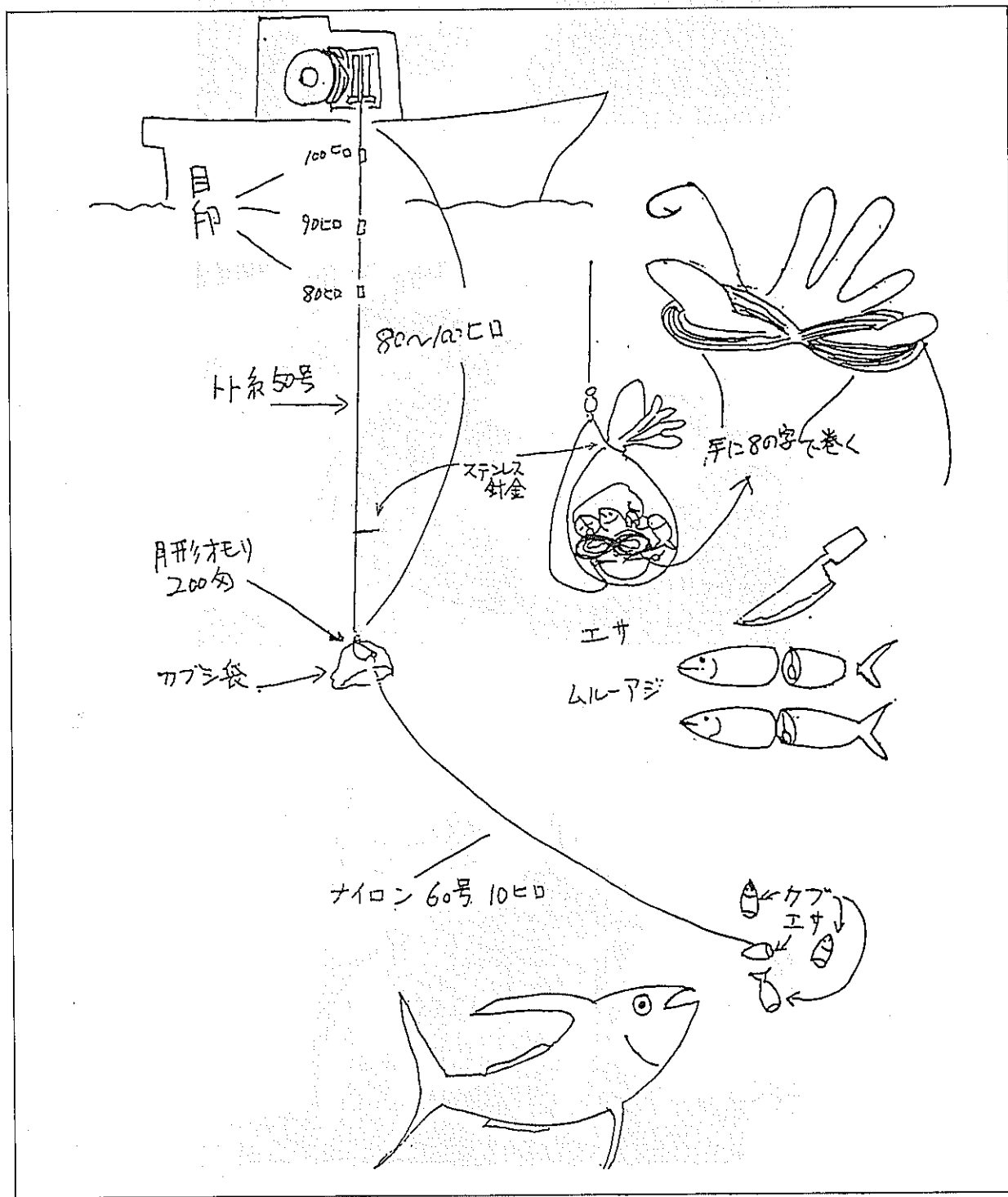
1回目の投入後、30秒も経たないうちにヒットし約10分を要して40kg級のキハダを揚げた（研修者はあまりの早さに感動を受ける）。

その後すぐに2回目の投入を行う。5分程で餌をとられ（道糸を持っていると感触でわかる）、糸を巻き上げる（約2分）。

4回目の投入で再びヒットし、30kg級のキハダを揚げた。マグロの胃を開くと撒餌のムロアジ切身3切れが出てきた。

その後あたりが止まったため、さらに南の「糸満14号パヤオ」に向かった。到着後漁を再開したところ2kg程のキハダが数本揚がった。船主による

と小さいキハダの回遊層より若干深い層に大物が回遊しているとのことである。そのために道糸を10ヒロ多く繰り出したところ、20kg級が漁獲された。また、船尾で投縄していた研修者渡真利氏も、10kg程のキハダを揚げた。結局この日は100kg以上の漁獲があった。



カブシ釣り（糸満式）

